

二月二十五日（月）

「心を通わす」

古人曰く、人生はあざなえる縄の如し。自分が今までに、歩んできている中には、よいこともあれば悪いこともあります。嬉しいこともあれば、悲しいこともあります。そして、よいと思ったことが実は悪くて、悪いと思ったことが実は、よくて。はじめから素直に謙虚に歩んでいれば、「よかった」と思えるのです。

人は、悪いと思うとき、自分で自分の心を閉ざし、良いと思うときには、おごりの心で人をへだてる。心を閉ざし、心と心を通い合わぬ姿からは、おたがいに助け合いも生まれてこないです。心ひらかぬ孤独の人びとばかりになります。「よい」ときにも

「悪い」ときにも、いかなるときにも素直に、おたがいに心を通わし、思いを相通じて、協力しあっていくことが大事です。